

## 経営協議会・教育研究評議会合同会議議事要旨

日 時 平成22年1月19日(火) 16:15~17:45  
場 所 事務局大会議室

出席者 遠藤(学長・議長)  
(経営協議会)  
藁科, 渡辺, 花田, 神田, 江羅, 渋澤, 石戸谷, 岡井, 小田切, 小野, 櫛引, 高橋  
の各委員  
(教育研究評議会)  
須藤, 三浦, 石堂, 四宮, 昆, 齊藤, 佐藤(敬), 對馬, 木田, 稲村, 竹ヶ原,  
鈴木, 鮫島, 佐藤(三), 木村, 長谷川, 檜楨, 高梨, 中根, 大高, 澤口, 新谷の各  
評議員  
役員等陪席者 南條学長特別補佐, 安倍監事, 井口監事  
法人内部監査室陪席者 平岡室長  
事務局・各学部等陪席者 千葉病院事務部長, 奈良岡総務課長, 青山企画課長, 原田人事課長, 小田桐人文学  
部事務長, 太田教育学部事務長, 村市医学研究科事務長補佐, 山田保健学研究科事  
務長心得, 長尾理工学研究科事務長, 石岡農学生命科学部事務長, 齋藤総務課課長  
補佐, 三上総務課課長補佐ほか

配付資料 平成21年度の総括について

議事に先立ち, 学長から本合同会議開催に当たっての挨拶があった。

### 協議事項

協議1 第1期中期目標・中期計画期間を踏まえた平成21年度の総括について

学長並びに各理事等から, 配付資料に基づき, 平成21年度の総括について説明があった後,  
次のような意見交換が行われた。

昨年11月にHPみんなの大学事典において弘前大学が注目度 1になり, その後もほぼ5位以  
内で推移している。

文部科学省で開催された青森県人会で, 本学の基盤整備が進んでいることが称賛された。

外部評価結果が思わしくなかったとの報告があったが, 外部環境は変化していくと思われるの  
で, 今の姿勢を粘り強く維持していくべきだと思う。

今後は太陽エネルギーを含め, 濃度の薄いエネルギーをいかに活用していくかが重要になって  
いくと思うので, 北日本新エネルギー研究センターの活動に期待している。

弘前大学には地方に在りながらも, 核となる活動を期待している。

弘前市民は弘前大学が在るのが当たり前になっているが, もっと市民と大学との結び付きが必  
要ではないか。

就職先があれば地元で暮らしたい, 帰ってきたいという卒業生が多い。

暫定評価では医学研究科が大学院充足率の低さの要因となったが, 数年の取り組みの結果, 来  
年度の志願者は140%となった。

人文学部から成績優秀学生が3名輩出され, そのうち一人の平均点は90点と大変優秀な成績  
であった。

附属病院で任期付職員であった看護師を，22年度から常勤に変更したことは大きな戦力強化につながると思う。

現在は各部局で人件費を管理しているが将来計画を立てづらいため，定員管理に戻すことを検討している。4月から実施したいと考えている。

保健学研究科では，被ばく医療コメディカル人材育成に総力をあげて取り組んでいる。

4月から基盤的な授業科目が開講される。

博士課程の定員充足には留学生が重要となるが，本学は留学生が非常に少ない。

留学生獲得にはアルバイト先，就職先の有無が重要となるため，行政や地域のみなさんにも協力を願いたい。

バイオマスは農学生命科学部が得意とする分野であるため，北日本新エネルギー研究センターと協力し，今まで廃棄されていた資源をエネルギー化する研究を行いたい。

また食の分野、環境の分野に関しての新学問領域を創出していきたい。

県との壁が低くなってきたことは地域の弘前大学への理解が深まっているということである。

最後に学長から，経営協議会委員及び教育研究評議会評議員に対して，謝辞並びに今後の支援及び協力について要請があった。

また須藤理事，三浦理事の交代，石戸谷委員が特別顧問となるため，退任の挨拶があった。

以 上